

## 第1学年 生活科学習指導案

### 1 単元 「あき だいすき」 ～○○っこ あきの たからばこを つくろう～

#### 2 指導観

##### 【こんな子どもだから】

- 本学級の子どもたちは、「はるだいすき」、「だいすきなあそびば」、「なつだいすき」の学習で、校庭や校区内の公園探検を通して、生き物や草花などの自然と触れ合う活動を行ってきた。繰り返し探検を行う中で、身近な自然に関心を持ち、進んで活動する姿が見られた。しかし、季節の変化、自然の不思議さや面白さを実感したり、自然の素材を生かして物をつくって楽しんだりできるまでには至っていない。2学期もさらに、探検して楽しみたいという意欲を強く持っている。
- 探検の場所や活動の種類について、自分なりの理由で、こだわりをもって選んでいる。
- これまでの学習で、活動の後に、見付けたことや活動したことをカードに絵や短い文で表現したり、伝え合ったりして、一人一人は、自分の活動に充実感を得ることができた。しかし、友達とのかかわりを深め、共に、対象に積極的にかかわっていかうとしたり、自分たちの生活に生かしていかうとしたりするまでには至っていない。

##### 【こんな教材で】

本校校区は、海に面しており、公園や広場が多くあり、非常に自然に恵まれた校区で、以下のような点から価値があると考えます。

- 身近な自然に目を向け、季節の変化や秋の自然の様子に興味・関心を持ち、自然と触れ合いながら、友達とのかかわりを深めて楽しく遊ぶことができる。
- 五感を働かせて直接自然と触れ合う活動を繰り返し行い、季節の変化を実感させることができる。
- 秋について気づき、表現したり交流したりすることで、秋の自然の面白さや不思議さを知る自分のよさに、気づくことができる。
- 集めた秋の自然物を使って、友達と一緒に物をつくったり遊んだりし、「友達ともっと楽しく遊びたい」「より楽しい物をつくりたい」「分かったことを友達に教えたい」というように、友達とのかかわりを深めながら、一人一人に意欲と自信をもつことができる。

### 【こんな子どもに】

- 身近な公園や広場で、草木や虫、木の実などの秋の自然に親しみ、友達と楽しく学び合える子ども。
- 葉、木の実、虫などの様子を繰り返し観察して、意欲的に知ろうとする子ども。
- 友達とともに試す活動を積み重ねながら遊びをつくる中で、自分の工夫に自信を持ったり、友達のよさを知って助言を聞き入れたりしながら、遊びをよりよい物にしていこうとする子ども。
- 自分なりに表現して伝え合い、互いのよさを認め合い、自分のよさや可能性に気付く子ども。

### 【こんな方法で】

#### ①意欲や自信をもつための支援の方法

- 自己選択・自己決定し、活動への意欲を継続してもたせる支援
  - ・集めたい秋の葉や木の実を自己選択し、興味・関心が持続するように支援する。
  - ・集めた物を共通の目的で遊びをつくるように支援して活動意欲が継続するようにする。
- 次の活動への意欲や自信につながる支援
  - ・秋の葉や木の実に対しての気付きを、つぶやきや言葉、絵で表現したときに、教師が「夏とちがっているところはどこかな」と問いかけて次の活動のめあてを見付けたり、「すごいね」「よく気付いたね」などと共感・称賛で気付きに自信をもてるように支援する。
  - ・称賛や助言を聞き入れ合える関係の中で、交流する場を設ける。
- 試す活動を積み重ねる場を仕組む
  - ・友達から教わることにより次のめあてを見出したり、友達へ助言することで自信をもったりできるよう、試す活動を積み重ねる場を設定する。
  - ・友達と秋の葉や木の実を探したり集めたりする時間を十分にとり、充実した活動をだれかに伝えたいという意欲をもたせる。

#### ②自分のよさや可能性に気付く表現活動

- 多様な表現活動
  - ・自分がつくった物を言葉や絵で表して伝え合い、友達や教師から認められ、自分のよさに気付くことができるよう支援する。
- 伝え合う交流活動
  - ・自分が知らなかった友達の気付きや、自分とは違う遊びを知り、友達のよさに気付くことができるように伝え合う場を設ける。
  - ・「できたこと」「分かったこと」「これからしたいこと」を自覚し、これからの自分の生活に生かせようという可能性に気付くように交流活動の場を設ける。

### 3 単元の目標

- 秋に色づく葉や、木の実、虫などを観察して気付いたことを絵や文で表現し合うことで、秋の自然のよさに対する気付きの質を高めることができる。
- 集めた秋の自然物で、友達と一緒に遊びをつくって遊んだり、よりよい遊びにつくり上げたりして、遊びの工夫や面白さに気付くことができる。
- 秋見付けや秋の自然物を使っての遊びづくりを通して、知ったことやできるようになったことを友達同士で認め合い、自分のよさや可能性に気付くことができる。

### 4 単元の仮説

秋の自然物を見付けたり、それを使ってよりよい遊びをつくったりする中で、したこと、感じたこと、考えたことなどを素直に表現し、快い応答がし合えるような支援をしていけば、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもつことができるであろう。

### 5 指導計画（全23時間）

段階	配時	学習活動と内容	教師の支援	期待できる姿
であう	1	<p>【であう】段階</p> <p>○自分の知っている秋や見付けた秋について話し合う。</p>	<p>○春、夏の経験を振り返り、知っている秋と比較できるように、写真や校区地図を掲示して、秋について想起しやすくする。</p> <p>○話し合いの後、登下校中や放課後に、意欲的に秋見付けができるように、校区地図を活用した“みつけたよコーナー”に、実物や絵、写真等を展示したり掲示したりする。</p>	<p>○これまでに経験したことや知っていることを、みんなに教えたい。</p> <p>○自分も見付けたい。</p>
	2	<p>○校庭の秋を見付けにいき、めあてを決める。</p> <p>・見付けた秋をカードにかく。</p> <p>・活動を振り返り、これからのめあてを決める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて あきの はまっこたからばこをつくろう。</p> </div>	<p>○1学期の「だいすきなあそびば」で探検した公園に意識が向くように校区地図を活用する。</p> <p>○見付けた秋を集めるだけでなく、集めた物で何かをつくって楽しみたいという意見を意図的に取り上げ、めあてをつくる。</p> <p>○子どものかいた気付きカードを掲示して、互いに情報交換ができるようにする。</p>	<p>○秋を感じる物をたくさん見付けたい。</p> <p>○見付けた物を集めたい。</p> <p>○学校の外を探検して秋を見付けたい。</p> <p>○集めた物でつくって楽しみたい。</p>

ひ た る	1	○探検の計画を立て、探検の準備をする。 ・どこに行くかとたくさん見付けられるかを話し合い、探検の場所と内容を確認する。	○“みつけたよコーナー”を活用しながら、話し合いを進める。	○1学期に行った時と、公園の様子は違うのかな。 ○1学期に行った時に、なかった物を見付けることができるかな。 ○みんなで遊びたい。
	3	【ひたる】段階 ○探検〈1回目〉 校区の公園や広場 ・秋見付けをする。 ・気付きをカードにかく。	○公園や広場の自然の中で友達と一緒に遊んで、秋を体感したり、秋の自然物を見付けたり集めたりすることができるように、十分に活動の時間を確保する。	○いろいろな形の物を見付けたい。 ○きれいな色の物を見付けたい。 ○たくさん見付けたい。 ○わたしは、きれいな飾りをつくりたいから、マツぼっくりをたくさん集めたい。 ○草むらで虫を見付けてつかまえたよ。 ○同じ木なのに、実の色が違うのはどうしてかな。
	3	○探検〈2回目〉 校区の公園や広場 ・秋見付けをする。 ・気付きをカードにかく。	○五感を働かせながら、比べたり例えたりして気付きを文に書くことができるように視点を与える。	○一緒に枯れ葉のすべり台をしようよ。 ○時間がたつと、色や形が変わることが分かったよ。 ○集めた物で、何を作ろうかな。 ○コオロギのつかまえ方を教えてもらったよ。
	3	○探検〈3回目〉 A公園（校区外） ・秋見付けをする。 ・気付きをカードにかく。	○子どものカードへ、色や形、数、種類や変化などについてかかれた気付きを称賛し次の活動のめあてや意欲につながるコメントをする。 ○気付きをかいたカードを掲示するコーナーを設け、これまでの探検を振り返りやすくする。 ○図鑑や図書を準備して、気付きの質を高める。	○秋の物をたくさんあつめることができ、楽しかった。 ○秋の物を知ることができて嬉しかった。 ○みんなで秋見付けをがんばることができた。
	1	・活動を振り返る。	○子どもの思いや願いを全体で交流し、次の活動のめあてや意欲につなげるようにする。	○マツぼっくりでつくれる物を、おばあちゃんに聞いてき
1	○集めた物でどんな遊びをつくるか話し合う。	○どんな遊びがつくれるかを、事前に、上学年やお家の人に		

いかす	1 本 時	<p>○集めた物でつくる。</p> <p>【いかす】段階</p> <p>○つくった物を伝え合う。 ・発表会をする。 ・発表会の振り返りをする。</p>	<p>聞くと参考になることを伝えておく。</p> <p>〈集めた物〉 ドングリ, マツぼっくり, 葉, 枝, オナモミ 〈つくる物 (遊び)〉 ドングリごま, 飾る物 (動物や建物), 的当てゲーム</p> <p>○助言しあったり, お手本にしたりして繰り返して活動できるように, 同じ物をつくるグループを組む。 ○つくっている物をお互いに自由に見せ合ったり, 遊んだりする時間を十分に設ける。</p> <p>○一人または, グループで, 自分たちがつくった遊びを発表する。 ○これまでの活動で感じ取った秋の様子や季節の変化が分かり, の気付きの質を高める言葉をかけをする。</p>	<p>たよ。 ○ぼくは, ドングリでこまをつくったことがあるよ。</p> <p>○友達から, ドングリごまの上手な穴のあけ方を教えてもらったよ。 ○Bさんのマツぼっくりでつくった飾りはビーズがついていてかわいいね。 ○もっと長くまわるドングリごまは, どうやってつくったらいいのかな。</p> <p>○ドングリごまのつまようじの長さをかえると, わたしのドングリごまはこんなに長くまわるようになりました。 ○マツぼっくりに色をつけたり, ストローで飾りをつけて, ツリーの飾りをつくりました。きれいにできました。 ○図鑑でコオロギの飼い方を調べました。コオロギが住みやすいように, 土や草を入れました。 ○C君のつくったドングリごまは, すごく強くて, びっくりしました。 ○私のつくった物を, みんながきれいだねと言ってくれてうれしい。 ○発表会が楽しかった。 ○たくさんのお話を聞いて, みんなで楽しむことができ, うれしかった。</p>
	1	○単元を振り返り, まとめをする。	○みつけたよコーナーや作品, 気付きをかき表したカードなどで, 活動の足跡を指し示す。	

	1	○みんながつくった物を、 秋の宝箱にならべる。	○つくった物を陳列する棚を 設ける。	○いつでも見たり,遊んだりで きるね。 ○宝物だから,大切にしよう。 ○使ったら,元の場所に戻そう ね。
--	---	----------------------------	-----------------------	--

6 本時

「いかす」段階における交流活動

平成22年10月 日(水) 1年 組教室

7 本時の目標

- 集めた秋の自然物でつくった遊びを、友だちと伝え合い、自分や友達の遊びのよさに気付くことができる。
- 自分のつくった遊びを通して、秋の面白さや楽しさを伝え、友だちから認められることで、自分に自信をもつことができる。

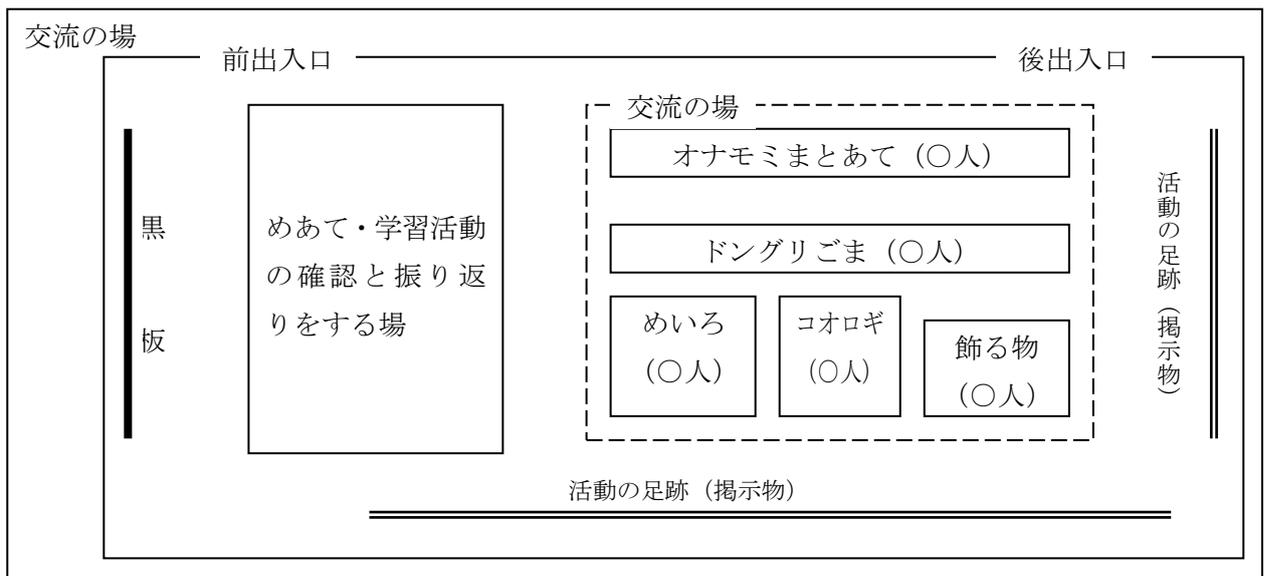
8 本時の仮説

伝え合う場において、友達が楽しんでくれるように工夫してつくった遊びを、友達や教師から言葉や身振りで、共感・称賛されることで自分のよさや可能性に気付く、さらに意欲と自信をもつことができるであろう。

9 本時指導の考え方

子どもたちは、前時までに、校庭や校区の公園や広場を探検して、秋を感じる物を見付け、集めた自然物を使って友達と共に試す活動を積み重ねながら、工夫を凝らした遊びづくりに取り組んできた。

本時では、秋の自然物でつくった遊びについて、伝え合う発表会をする。発表会では、一人またはグループで、自分達の遊びを説明したり、遊んでもらったりする。発表を聞いた子どもは、発表者の遊びや発表内容のよいところを見付けて伝えるようにする。よいところを伝えられることで、自分が見付けた秋に対する気付きや作り上げた遊びのよさを確かにし、認められた喜びを味わい、自分のよさや可能性に気付くことができると思う。また、全体で振り返る時間を設け、自分が感じていなかった秋の様子のことを友だちの発表で知ったり、自分の発表で友だちと気付きを共有できたりする経験をさせたい。そのような学習活動を通して、学び合う楽しさを実感し、意欲と自信がもてるようにしたい。



10 準備

【子ども】 作品 (ゲーム, おもちゃ, 飾る物など)

【教師】 活動の足跡であるカードや写真, 実物の展示と掲示, ふりかえりカード

1 1 本時の展開

学習内容	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてと活動の仕方を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">うきうき わくわく はっぴょうかいをしよう。</div> <p>2 全体で交流する。</p> <p>(1) 自分のつくった遊びのことを伝えたり、遊んでもらったりする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○伝えること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しいところ ・お気に入りのところ</li> <li>・すごいところ ・かっこいいところ</li> <li>・名人になったところ ・大好きなところ</li> <li>・自分のつくった物の遊び方やルール</li> </ul> <p>(例)</p> <p>「ぼくは、コオロギの飼い方をしらべました。羽の模様でオスとメスが分かります。鳴くのは、オスだけです。最初、さわれない友達もいたけど、みんなが触れるようになって楽しいです。」</p> </div> <p>(2) 伝え合いの中で、感想を言う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○感想の視点</p> <p>友達の作品の</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しいところ ・かっこいいところ</li> <li>・すごいところ ・気に入ったところ</li> <li>・好きになったこと ・知ったこと</li> </ul> <p>(例)</p> <p>「オナモミが 100 点の的に当たって楽しかった。」</p> <p>「マツぼっくりのツリーがかわいいね。」</p> <p>「コオロギは、オスだけが鳴くんだね。」</p> </div> <p>3 今日の学習を振り返る。</p> <p>(1) 友達のつくった物の感想を発表する。</p> <p>(2) ふりかえりカードで、自分の活動の振り返りをする。</p>	<p>○カードや写真、探検で集めた秋の自然物など、これまでの活動の経過を示す物を掲示・展示しておき、どんなめあてで発表会をするのかが分かるようにしておく。</p> <p>○自分達のつくった遊びの楽しいところやお気に入りのことを友達に伝えたいという子どもまたはグループから発表をする。子どもの自発的な発表の意欲を称賛して、見せ合いや遊び合いを広げていく。</p> <p>○教師は、つくった物のどこがよいかを子どもが価値付けできるような言葉かけをし、子どもに自信をもたせるようにする。</p> <p>○教師は、子どもが、自分のこれまでにつくってきた遊びやつくった物に自信をもつことができるような他者からの共感や称賛の言動を取り上げる。</p> <p>○つくった遊びや活動のよさを価値付けし、自信や意欲をもつことができるような感想を発表させる。</p>

板書計画

